京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金三錢 ▲一ヶ月金六十錢 ▲三ヶ月金一圓八十錢 ▲六ヶ月 [illegible]
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料 [illegible]
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久[illegible]一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話 [illegible]
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話 [illegible]
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

史譚



臨終の奈破翁

山水道人

第三回

堅氷鎖す北海の山を越ね、瘴煙罩むる南邊の野をよぎり、滔々として涯よりも涯へ、漲り渡る文化の大勢は、米関の闇外より開きつ、西へ東へ流れ流れて進み行く世の風潮の、圏外に横はれるセントヘレナの孤島の日は、静かに明けつ長閑に暮れて、斷へ間なき波の音のみ、たゞ僅に、花開いては鶯啼の響に心をはせ、葉落ちては天下の秋を知るのみ、日出でゝ覺め月昇りては夜の夢に入る、斯くて安けき生活も、風の暴雨の夕、あるは怪しき雲鎖れて、星のみ光る暗き夜な夜な、波石に心波立ちて、松吹く風も矢叫びの響と聞き、窓打つ雨も劍戟の響と聞きなされ、渾身の血もさては湧きなむ孤島の月、徒らに髀肉を撫して嗟嘆しつ、往事を憶ひ今事を憬ひ、孤影悄然夜氣寥々、獨り自ら顧みては、惨として笑ひしこともありけむか？

斯くて憂悶かくて怨嗟、奥深き其胸の燃ゆる思は何時か去る可き、よし總身三斗の血は涸れつ、涙は盡きて枯木の態に歸らむとも、生きとし生ける多感の彼、など千秋の恨み忘れなむ。

檻中の虎は無爲に伏す、孤島のナポレオンはこゝに單調の生活を強ひられつ。

日課と云ふは、たゞ騎馬と讀書の二事あるのみ、ことにも騎馬は彼が嗜好中、何物にも代へ難き至樂として、風雨の外は曾て廢せず、或は野を驅り岸を馳せ、時には常人の騎するを恐るゝ斷崖絶壁嶄然として、峭立せる巖頭に駒を立て、アルプス當年の快を偲ぶ事も有りしかど、執拗なる英國兵の、常に追躡近從して、瞬時も離るゝ事無き監視の煩鎖は、遂に彼をして懊惱に堪へざらしめ、遂には戸外の遊歩をしも思ひ止まるに立ち至りぬ。

或日の事なりき、無智にして凶暴なる英兵の一人は、皇帝を狙撃せむとして其銃を擬しぬ。

危機一髪！

皇帝の運は盡きざりき。

忠實にして勇敢なる從者の一人は、英兵の搶間正に其銃鐵に觸れんとする一刹那、蓦然？、飛鳥の如く身を躍らして凶漢を捕ち、皇帝は幸ひに免れぬ。

されば孤島に於ける皇帝は、動もすれば不測の危害身に迫り、内には心靈の苦痛を覺ひ、外にはあらゆる迫害と闘ひ、心身共に寧日無く、平和はいとも稀なりき、斯くても帝は小康を保ちて、瞬時は無事に經過しぬ、されど开は極めて短かき時間なりき。

あゝ災厄は遂に近づきぬ！

果然！災厄！

獰悪なる島司ハドソン、ローは新に來りぬ。

殘忍なる迫害と深酷なる苦痛とをもて敗殘の皇帝を弄ぶ可く、そもや如何なる胸算をか蓄せしぞ！。

大苑

◎基督教の演説を聞て

加藤梅雄

日本の人にしあれば同じくは
吾大神の教とかなむ

倭 鏡。
二つなき國の光もあらはれて
世に草なぎのつるぎ偉し

玉。
たぐひなき光を四方に敷島や
まがりの玉は國のみたから

神 祇。
幸のあらざらめやは神ながら
護り教を人し守らば
いつまでもいすゞ河らの變りなき
宮居尊しすめら大神

鏡。
さねごしの神にかけてます鏡
曇なき世を猶いのるかな

曉。 神 祇。
御戸ひらく音もききへて尊しな
夜もほのぼのとあけの玉垣

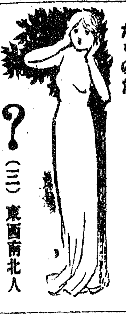
毒草のいろいろ

▲クサノワウ 至る所の山野に自生する越年草で、寒になると莖の高さ一尺ばかりになつて、四瓣の黄い花が咲く、莖や葉を折ると黄い花の液を出すが、それは皆毒だ。

▲曼陀羅華 春に芽が出て、秋に漏斗形の白い色が開く、全体に刺多く、外面には毒がある、此草の種子は麻酔毒となる。

▲フヂウツギ 夏になると山野又は河邊に自生して紅紫色の花が咲く、これは灌木であるが枝葉共に毒があつて、水中に投ずると魚を醉すとができる。

▲莽草 枝葉の細かい常緑木で、人は多く佛前に手向ける樒、黄色の花が咲いて、開裂した實がなる此の實に毒があつて小供が能く中毒する。抹香はシキミの皮で製したものだ。



？（三）

東西南北人

簡易生活と云ふやうなコトは明治のスウヰートホームと云ふこととは全く其趣行を異にしてゐることよ。―スウヰートホームと云ふのはイギリスの菓子の名で女權擴張と云ふのはフランスの料理の名だらうて？……なんでもいゝことよ、ミツシリさう惡口をた云ひなさい、これでもリーダーの三や四位讀んだこともあるし女權擴張論の概念位知つてゐますことよ。

元來あなたは人のあげ足ばかり取つてゐるくせに自分の事は一向にれかまいなしチ、簡易生活を標榜し、報德宗の鼓吹者だなんて大きなことをれ仰つてそれで酒はのむ煙草は吸ふ、遊びにはた行きになさる、マルデ言行相反していらつしやることよ。

酒と云へば昨夜なんぞも、あんなにれあがりになつて橙と赤インクの中にひたしたやうな顔をなすつてさ、熟柿くさい息をふきながら何時までも何時までも管を捲いてゐらつしやつて、私ほんとに困つたわ、少しは愼みなさいな、誰れかがあなたを蛇の子だつてれッ仰つてよそれに煙草も無類好きであらつしやるてことよ、朝起きるとから夜寢るときまでプカプカ煙をはき出してよ、マルデ顔の眞中に煙突を立てたやうよ、あれでばかりならいゝが、疊の上から机の上から着物の膝からマルデ燒きホガシばかりぢやアありませんか先日も先日よ何らツッツかしいつたつて何らアツフたつて火のついてゐる煙草を袂の中に入れて風呂に行くものがあるものですか、それでもよく顔の眞中に能きホガシが出來ないツて隣の人が感心してゐるやうですわ、マアそんなことはドーでもよいとして今日チ、あなたの留守中に子岡村さんが來てチあなた、あなた、あなたつてばマア人の惡い！人にばかり口の酸くなる程喋らせてれいて、モウれ眠つてしまつたの！あなた、あなたつてば！（終り）





召使れ初

第九十七回

黒法師

「奥方れ詞でござりまするが、れ奥の束もする身、其處に如才ござりませぬ、動かぬ證據は、此處にもござります、これを御披見ござりませ」

澤野は更に懐中より一封を取り出しぬ、されば奥方は見向いても御覽あらせられず

「その文はの」

「澤老屋鶴右衛門自筆、れ道どのに宛てたる一通と、動きあるまじく、手鑑に取り寄せたでござりまする是れと彼とを御一覽あらせられば仔細分ります墨の色、筆の痕、瓜を二つに割つたやう、寸分の相違ござりませぬ」

「ほゝ」と奥方は笑はせて「澤野にも似ぬ不思議なこと申すよの、手鑑贋十通あらうとも、その文二通が鶴右衛門の筆の跡あらうとも道を罪に陥れる禪とはならぬ、万一鶴右衛門道を恨みてとあつて見やの、什麼な文言書くまいとも限らぬわの」

「御意ではござりますなれど……」

澤野の更に云はんとするを、奥方は又仰へ付けて

「さらば尋ぬる、萬々一こゝにそなたを恨むものあつて、不義の數々、聞くにも堪へぬ文言を書き併べ、人の目に付き易い、れ廊下に落し置いたを、折悪しく道の手に入り、澤野正しく不義の罪と、訴訟でもいたしたら、そなたの罪に服するかの、身に覺ない濡衣着せらるゝ不義の名を受けるおやの」

「ねと澤野も返す詞なく狼狽れて「答へあるまいがの、返答の窮機あるまいがの、同じ奥に勤むる身は、互に手を引き助け合ふて、恥辱を秘すやうにするが、朋輩の常どもあるを、そなた等は心得無う、兎もすれば取るに足らぬ些細なこと云ひ争ふて、風もない水の上に浪を起すは、假にも上に立つ身のせぬ事ぢや、以後をきつと謹まう謹んで過失を二度致すまいぞ」と奥方は澤野の頭を千万斤の鐵槌もて抑へ付けるやうに云はせぬ

澤野は一言だもあらず、今となりて奥方のれ口より、斯るれ詞を聞かんとは、實に思ひがけざりき、此處まで組み上げたる石崖を、忽ちに碎き落すは彼女及び彼女一派の忍び難く感ずる所なれど、此上に毛を吹かば、什麼なる疵の現はれんかを恐れて、澤野は只思案の頭を揺ぶるのみなりき、奥方は重ねて

「道の身にかゝる明りは立つた、向後過失ないやうにいたせ」

れ道は今にも暗き地の下へ突き陥さるべきか、恐しき火の中へ投げ入れらるべきか、一たび狙上の魚となりては再び生きて安穩の地は得られまじく、圖りなく奥心にきつと覺悟したるを、危き所を免かれたる方れ情に取り圍まれて、嬉しさに胸も塞ぎ、有難さに身の毛も慄ひ、什麼に申し上げる挨拶の詞も出でず、心に奔ど兩手を合せて、同じ座に端居たりれ察の思ひも同となりき、君江の心も同じなりき、れ道に同情せる女中達も皆同じ思いの中に、嬉し涙を流さぬはあらざりき

東京電報（七日發）

▲東宮妃御參內　來る十三日葉山より還啓あらせらるべき東宮妃殿下には十四日午前十時半東宮殿下御同列にて參內 兩陛下に御對顏の上御大患中軫念を賜はりたる御禮を言上あらせらるゝ由

▲取引所紛擾　東京株式取引所にては仲買店半田庸太郞に對する追證據金問題より紛擾を來たし昨六日の取引は終に休會したり

▲無線電信と米國　米國政府にては去る一日より內外一般の船舶にして無線電信局を設備せざるものは自國港灣に出入する事を得ずとの法律を實施したり

▲鐵道郵便の復舊　過般來水害の爲め不通なりし中央東海道の兩線郵便物復舊したり

▲臺灣の黑死病　臺灣嘉義廳管下に於ける黑死病患者は本年初發以來累計三百七十名となれり

▲地方債總額　最近內務省の調査したる四十三年度の地方債總額は一億六百七百三十万圓にして其內譯は舊債償還六千五百十五萬圓、普通土木費四千五百八十万圓、衛生費二千二百三十万圓、敎育費千二百八十万圓、災害土木費八百八十万圓、勸業費六百万圓なり

▲滿洲穀物課稅　淸國は今後滿洲より輸出の農產物に對し賣手に二步買手に一步の各從價稅を課する事となれり

▲遊行寺の燒失　神奈川縣藤澤の時宗本山遊行寺は本堂を除き其他全部燒失したり

▲遣英宮御出發　伏見遣英宮殿下には愈々明八日倫敦御出發の旨公電ありたり

▲日露犯人引渡條約　日露犯人引渡條約は五日の樞密院會議に御諮詢あり二三顧問官の質問に對し小村外相、岡部法相の說明ありたるが結局原案可決伏奏に及びたり

▲電車市營反對運動　東京市民間には電車市營反對運動を開始し七日市民大會を開くため其筋にては警戒嚴重なり

▲御用邸の午餐會　李王世子殿下には來る九月より中央幼年學校へ御入學に付紀念の爲め今七日同窓生五十余名を葉山御用邸に御招待され紀念の撮影を爲しそれより午餐の饗應あり餘興を催ひ

▲三博士歐米派遣　和田垣、辻、矢矧の三法學博士は歐米へ派遣仰せ付けられたり

▲巡撫道臺に御賜品　曩に東伏見宮殿下御渡英の途次江蘇巡撫上海道臺は非常に御優遇申上げたるため天皇皇后兩陛下より道臺及巡撫に御賜品ありたり

雜報

●慈惠醫院增設問題　今回の地方長官會議に於て各道長官より慈惠醫院增設の希望ありし由なるが同院今日の情況に因れば一日四百五十人の患者を診察して非常の成績を擧げ居ることなれば增設必要素より可有之も其費用は一個所に付き三四萬圓を要し今若し一道に一個所づゝを增設すれば新たに四十餘萬圓の經費を計上せざる可らず斯くては國費多端の今日容易ならざる故寧ろ多くの分院を設置し設備の完全を期し慈惠の趣旨を一般に普及するの外なしといふ

●定例長官會議　七日午前九時より總督府に於て定例長官會議を開き寺內總督山縣政務總監を始め倉富、石塚、木內、荒井、宇佐美、小松の各部長官明石警務總長池田通信局長官俵副總裁小城長官代理の諸氏列席政務の打合せを爲し正午散會

●隊長會議終了　去る二十七日來警務總監部參考品陳列所に於て開會中なりし憲兵隊長警務部長會議は六日を以て議事全く終了したるを以て七日午前九時より中野警務官の案內にて總督府醫院及工業傳習所等を參觀したり

●總督と憲兵隊長　寺內總督には七日午後三時より各憲兵隊長を官邸に召集し一般執務其他に就て一塲の注意を與ふべしと

●各地方署長會議　各憲兵隊長警務部長は寺內總督訓示及明石司令官警務總長訓示並に指示に基き歸任早々各憲兵隊長警察署長を召集し隊署長會議を開く筈

●各郡守に傳訓　各道長官歸任の上は管內郡守を召集し寺內總督訓示の意を體し五日以內の會期を以て郡守會議を開く筈なるが同郡守も亦た管內各面長を召集の上會議を開く由

●赤十字招待會　赤十字社朝鮮本部にては六日午後七時京城ホテルに於て支部長各道長官同副長各警務部長招待會を催したるが本部よりは山縣總長以下明石評議員、藤田、宇佐美、小松の各副總長國分、兒玉、小原の各管事出席席上山縣總長は赤十字社愛國婦人會が朝鮮に於て漸次好況を呈しつゝあるは各位の盡力に因るべく尙將來益〻事務の餘暇一層の執務を望む旨挨拶せられ次に兒玉事務官擧より各支部會計規程設定に關する報告あり終て外人ジョンベールの滑稽興味ある餘興ありて一同散會したるは午後九時過なりき

●六月中の韓銀金融　韓國銀行に於ける六月中の金銀取引高を記せば左の如し

△金銀出納高	
入金	二五、八三一、八八〇圓
出金	二五、三七一、六六二圓
△預金	
邦人	二、〇七九、八七六圓
鮮人	四〇二、六六三圓
外人	一三〇、六五七圓
計	二、六一三、一九六圓
△貸金	
邦人	二、〇六四、四七七圓
鮮人	一〇五、〇九一圓
計	二、一六九、五六八圓
△爲替	
受入	二、八五三、三六六圓
拂出	七七二、一八七圓

●圖滿江航行問題（解決）　淸國吉林省の渾春より上海間の貿易を目的とする圖長航業公司は資本金九十餘萬兩にして官民合同の下に成れるが其第一回の事業として本春汽船三隻を以て渾春上海間に木材の運搬をなせしが其際圖們江航行に當り我領水を無斷通航せしため一應該汽船に對し取調べをなしたるが淸國側は露淸條約に依りて同江の航行は差支へないと首唱したるも露淸條約は日淸間に何等の効力を及ぼすものに非ざるを以て遂に淸國をして我國の認許を得て該會社が豆滿江に於ける我領水を航行する事を許す事に決し該事件は落着したりと

●六月中の京城出入品　京城稅關を通過せし六月中出入品概表如左

△輸出及移出品の部▽	
人蔘	二〇七
牛皮	一、五九一
黑鉛	三〇
其他諸品	二、五五三
合計	四、三八一
△輸入及移入品の部▽	
小麥粉	一四、六七六
鹹魚	七
麻布	一〇、八八八
絹布	六、八三四
靴及履物	七、一三七
諸文具	八、三七二
熟鹽	三九
鐵筒及管	一四六
砂糖精糖	三、四五二
淸酒	一〇、三七五
麥酒	三、三八二
藥酒類	二、六二七
石油	四
晒金巾	二、八七二
蠟燭	一一九
繰綿打綿	二、〇七六
綿織糸	六、四三六
木製品	二、九〇三
小包	一四七、九〇六
日本木綿	一〇、二六一
天笠布	五九二
果實	八、三七三
鑵詰食物	三、八四九
毛織物	四、八六二
交織物	一、五七四
紙	五五、七三三
書籍類	七、〇四九
軌條類	四六
鐵鑛	一六
鐵鍋釜	一、〇六七
機械類	一六、三七一
煙草	四五、九七九
陶器磁器	二、三二五
生金巾	八一、四四九
木材板類	一、三二一
叺繩及莚	八四
家具	三、五三六
燐寸	七〇〇
洋傘	三、七六七
諸雜品	三九、七四二
綿繻子	三三九
合計	七三八、二九六

備考生金巾晒金巾には生シーチング晒シーチングを含むもの又綿繻子中には綿イタリアンスを含む

●在鮮外國人數　總督府調査に係る本年五月三十一日現在朝鮮全道に於ける外國人在住者總數八千六百八十二人なるが內淸國人の七千七百〇六人を除却せば僅々九百七十八人に過ぎざるが其の多くは宣敎師及牧師等にして他は商業に從事し居るものなりと云ふ

●六月末の京城の內地人　六月末の調査に依れば京城民團區域內に在る內地人戶口は戶數は一万二千九百九十六戶、人口は男二萬八千九百二十六、女二萬二千九百十二人計五萬千八百三十八人なり之を五月末に比すれば戶數四百三十一戶人口千〇十二人を增加したり

●十八銀行上半期の成績……足立支店長談……　當期純益金五千三百七十五圓四十八錢之を前期の一万千四百三十六圓十九錢に比して六千六十一圓五十一錢の減額を數字上に示せるも併し這は當行決算上往々斯る事例を見ることあれば下半期に於て優に之を補ふ數字を現出すること蓋し明らかなりさて昨年八月日韓併合と同時に免租減稅行はれ恩賜公債及恩賜金の下賜等あり一面政府事業として港灣の改良、鐵道の布設、道路改修其の他內地人の不動產に對する放資等あると今春來米豆雜穀の價格常に良好なるとに依り鮮人の購買力大に增進したる結果商況は頗る生氣を帶び從て資金は一般に潤澤となり各港灣貿易額の如きも月々增加を呈し居るは統計の示す處なる一般財界も順調となり其の餘波各種銀行の金銀出納高に俄然昂騰したるものゝ如し茲に當支店に於ける上半期の營業成績を示さんに金銀出納高に於ては昨年の同期に比し約六割五分の激增を見預金に於て同二割八分を貸金に於て一割四分の增加を見たるが仁川鎭南浦釜山元山木浦群山の各支店及羅州龍山出張所等何れも未曾有の好成績を得たり要之朝鮮經濟界の日に順調なるに伴ひ營業も日に繁忙を告ぐるに至るべしと云ふ

●商議員間の暗流　前號所載商業會議所議會總會に於て役員選擧の際會頭として山口太兵衛中村再造兩氏同點を得終に決選投票の結果二票の差にて山口氏の會頭當選を見るに至りしが此有樣に徵しても會頭の椅子を山口中村兩氏が爭ひしを知るべく而かも其運動の激甚なりしことも亦察せらる今山口中村兩派の顏觸を聞くに中村派は秋吉、小川、近藤、古城、釘本、池田長次郞、池田長兵衛、增田、林田、小林、小川、久保田金次郞、增尾、大島の十四氏山口派は進藤、松浦、前田熊市、佐野、鹿富、前田喜、高木、久保田虎助、森久、三上、西元、大和、執行、大橋の十四氏深見、梶原の二氏は中立として何れにも屬せず六日の總會にて愈山口氏會頭に決するや中村派の小川氏先づ去り同派の小林藤右衛門氏何か演說せんとせしに議長たる山口氏は演說時間に制限を附せしより議場紛擾を極め（結果閉會）以下役員選擧は來る十日午後六時より行ふこととなり散會せしが如此議員間二派に別れ互に相反目するは商工業發展の爲め闘として甚だ面白からざれば山口氏に辭職を勸告すると共に中村氏をも斷念せしめ他より適當なる會頭を擧げ議員間の圓滿を計らんと奔走するものあり又中村派には副會頭には同派の釘本藤二郞氏を擧げんと協議しつゝありといふ又山口派にては深水淸氏を推すとに決せりと

●土地收用令適用　南大門外道路取擴の爲に關し同方面土地所有者中買收の交涉に應ぜざる內地人一名鮮人二名に對しては再三懇々說諭する處ありしも頑として應ぜざるため止むなく土地收用令を適用する事に決し目下案を具して總督の認可を申請中なり

●軍港及要港規則　鎭海灣防備隊司令官は鎭海軍港細則九十條を永興防備隊司令官は永興要港細則五十六條を各六月廿日付を以て海軍省令により發布したり

●京釜線電話工事　遞信局にては目下京城釜山間の電話線路修繕中なるが來る九月迄には全部の工事を終り十月には通話の運びに至るべしと

●京畿道內務部長　元京畿道內務部長故中大路正雄氏後任に元千葉縣事務官にして現に道事務官たる帆足準三氏（高等官三等）は決定せりと

●內地移住小作狀態　內地人の農業經營者が招致せし內地人小作人が昨今三南方面に於ける營農狀況を視察したる某當局の談話によれば小作人は勿論內地に於けるより其所得上利益あるのみならず鄕黨の關係は種々の雜支出を要せざる本國に比し朝鮮に斯る世間的の冗費を要せず又地主に對しても四季夫々の贈物をなすの必要もなく小作料の利得は全く生活費に用ひられ反つて安樂な生活をなし居れりと

●山根囑托の歸任　去る五日を以て鴨綠江南岸衛生視察の爲め出張中なりし山根總督府囑托は六日夜歸任せり

●岩井敬太郞氏轉任　元內部書記官兼警視として當地に在り後宮崎縣事務官に轉せし岩井敬太郞氏は今回松井茂氏が知事として在任中靜岡縣事務官に任命せられたり

●天野群山府尹の入京　群山府尹天野喜之助氏は府尹會議に列する爲め六日入京せりと

●本多博士の出發　滯京中なりし東京帝國大學農科大學敎授博士本多靜六氏は隨員數名と共に七日午前當地發馬山釜山元山方面に於ける山林視察の途に就きたり

●東拓拂込成績　東洋拓殖株式會社第二回株金拂込は去る五日を以て締切りたるが十九万圓の不納を生じ結局二百三十一万圓の拂込を見たるが殘額も百圓に就き日步五錢の延滯利子を附して拂込ましむべしと

●各隊長の歸任　各道憲兵隊長警務部長の一行は七日總督の注意後隨意歸任する事となり居るが多くは八日歸任の途に就くべしとの事なり

●龍岩浦石首魚の不況　龍岩浦附近に於ては五月八日の大潮に石首魚は近年稀なる漁獲ありしを以て六月大潮にも大漁を期して西海岸に在る漁船は皆龍岩浦附近へ集まりたるに此時は前に反して各漁船とも僅かに六七圓の漁獲ありしのみ而して六月二十六日の大潮を期し出漁したるも又不漁にして毫も獲る所なく漁船は今や殆んど引揚げ準備中なり

●嘉す可き貯金奬勵　咸鏡南道定平郡衙及學校憲兵分遣所等に在勤する者發起となり副業を興し且つ貯金を奬勵せんと圖り郡內の有志者を會員として草鞋製造會なるものを組織して每月業務の餘暇義務として定數の草鞋を造り其成績優等なる者には賞狀又は賞金を與へ又製作品陳列濟の上は草鞋競賣に附し代金は全部作者に與ふる規定なり

●赤十字社長弔詞　赤十字社京城支部副長中大路道事務官逝去に對し松方本社長より叮重なる弔詞を寄せたり

●南北四萬哩　題して南北四萬哩と云ふ大阪每日新聞の記者にして目下東京日日新聞に從事する柯公大庭景秋氏の著なり君昨四十三年三月一管の筆を載せて軍艦生駒に便乘し南阿を經て南米アルゼンチン及ブラヂルの兩共和國に赴き次いで大西洋を橫斷して英國に到り茲にて艦を去り英都に入りそれより中北歐諸國を訪ひ土耳古ペルシャ及び其他の中央亞細亞諸邦に訪ひ露國を通過して歸朝したる七個月半に亘るの大旅行記なり、三宅博士の言を藉りて云へば柯公子は志の大なる小丈夫なり、氏嘗に壯遊を事とし前年濠洲及び其の他の南洋諸島に遊び其後ち滿洲西伯利亞地方に出沒し今亦南阿南米歐洲及び中央亞細亞に足跡を留む、本書敍ふるところ南阿に於ける英國の施政經營、南米兩共和國の現今時局及び歐米列國との關係中央亞細亞諸邦の現狀及將來馬來半島に於ける邦人の狀況等凡て柯公的筆致と炯眼とを以て記したるもの一讀巻を措く能はざらしめ同時に國家興廢の理を明かに知らしむ。（發行所東京四谷愛住町政敎社定價金一圓）

讀む可し讀む可からず

山水道人

▽曉の鐘を鳴はし、西より東へ北より南へ、高く低く遠く近く響き渡る梵鐘の聲、そこに人は新たなる生命の囁きを聞かむ。

▽今日もまた一日は暮れて入相の鐘一つ、ゴーン……陰々として野を渡れば、風無きに桐の葉がホロホロと散る。

▽朝露に生きて希望に醒く、彼の眼には光り有りその唇には紅の色が溢つて、笑ふ門には福どころか馬が跳ねても面白い、犬が吠えても氣が勇み、仁丹の看板を見ても愉快だ、道で葬式に出會つても可笑しくなる。

▽無爲は倦怠を生み倦怠は惰氣を生む。

▽疲勞は苦痛を生み苦痛は怯氣を生む。

▽斯くて惰氣と怯氣は厭世を生み。

▽花を見ては散らんことを憂ひ、月を見てはその缺げんことを悲み。かくて世に我が行くかたの知られねば、チヨイとこちらで南無阿彌陀佛、などゝ來る。

▽惰氣と怯氣は何時の世にも安心の息から入る。

▽女性美賞せられて希臘は亡び、男性美賞へて羅馬は亡びた。

▽平安の都の花や春の月、銀鞍の公子市に醉ふて、奢る平家の長夜の夢は、先づ水鳥の羽音に破れた。

▽まつた、武士の情けは櫻の花一枝、箙に挿して小櫻縅や緋縅に香たき込み、ヤアー遠からん者は音にも聞け我こそは桓武天皇の嫡流にして、なぞゝ後ろ向いて步行いて居れば天下泰平。

▽春眠不覺曉と柱には書いてある、啼鳥午を告げても正三品は寢床の中、目覺まし煙草の煙の行くへを眺めて居れば、五體は何時かご膳の上に運ばれる。

●乘車割引券の抽籤　日韓瓦斯會社の電車賃輕減紀念として發賣したる抽籤付乘車割引券は發賣當日二千四百部を賣り殘高六百部は翌日賣切れ來る十五日會社內に於て午前中に抽籤をなす筈にて終了後直ちに翌日の新聞に廣告すべく當日は各新聞社通信社員等立會すべしと云ふ

公人私人

▲天野喜之助（群山府尹）六日山本旅館へ
▲橋本二郞（檢事）六日東金旅館へ
▲樂葉孝平（技師）六日山本旅館へ
▲箱田淳（檢事）六日釜山行
▲谷三男（陸軍二等軍醫）六日濟州行

▲京城手形交換高▼

七月	枚數	金高
七日	五三一	二二四、四二七、三二〇

▲治外法權▼

昨本紙の社說「天皇陛下の御巡幸を仰ぎ奉る」に對し愛讀者よりとして三通の贊成的投書が來た、因つて記者は右三通を一シヨにして左に披露することに致した▲曰く我至仁至德なる陛下は常に新領土と其住民との爲に特に大御心を勞させ給ふ、故に若しも寺內總督にして九州大演習御臨幸の御序を以て當地へ御巡幸あらせられんことを奏請するに於ては聰明なる陛下の开を御嘉納あらせらることは必然なりと恐察せらる▲又曰く曾つて陛下には大久保卿の奏請を納れさせ給ひ、廢藩置縣の前後、民心の聊か歸向を缺きたるの際に於て關西奧羽北海等を御巡幸になつた。而して其御巡幸の結果は民心の歸向を定め、新政施行の基をなしたのである▲ナナも我朝鮮は聊か倫を失するやも知れねど、其現任に於ては恰かも大政返還後乃ち廢藩置縣の前後に於ける母國のソレと同じき狀態にあるのだ。於是乎思ふ、若しも今の時に於て陛下の御巡幸にしてあらんか、民心の歸向茲に定まり、新政施行の基、茲に開かるゝを▲序に記す、一時噂の高かつた馬山に離宮設置の事は其後ドウ云ふ譯かして立消となつた、併し記者思ふに皇室と新領土との關係上離宮は是非共置かるべきものだ、而して此事に就ては主として寺內總督が盡力す可きものだ▲全羅南道に於ける盃山を今度新畝傍と稱して其頂上に神功皇后を奉祠することにしたとは結構な事だがナローなら神武天皇を主として奉祠し、神功皇后をば合祀するのが本當の筋だ▲开は兎に角新畝傍の名稱は京日の記者並川に因つて附せられたものだ、而して並川某人はと云へば彼れは大和の產にて其顏形より云へば慥かに天孫人種の末流、彼れが新畝傍と思付いたのは決して偶然ではない▲岡崎日韓瓦斯電氣の專務が洗禮を受けて基督信者になつた、ト不思議がるものもあるが、市原韓銀總裁の如きは昔からの信者だ、思ふに市原岡崎の兩者は信仰の人だ、故に世人は彼等を目するに模範を以てすべしだ。

藝妓健康診斷の議と各方面の意見

藝妓に健康診斷を受けさせると云ふ議が傳はつて以來其の筋の恐慌と云つたら凄ましいものだ、無理だ人權蹂躪だなぞと慨嘆するもの、身に覺へがあるから受けても宜しいけど單婦さんぢやア堪らないつて新町の娼妓さんですら檢査と云ふと顫へて御座る、まして初めて出會す姿達は恐いと云ふもの怖々でげす從つて局外者にして而して深い關係のある客筋の中にも賛否の論がある、此の時に際りて之れを紹介することも豈に無益の業ならんやでしよう

竹間たま子

私は各々樣方の御議論中へ差出ましたれど、爾ひながら私の意見書き記し御送り申しますから揭せられるならば載せて頂きたう御座います、どて下の如く書き送つた竹間たま子とは何者であらう、他でもない新町遊廓京城樓の鈴子の本名である、其の意見の要點を摘んで披露すると斯うだ。藝妓衆方に健康診斷を行うと云ふことは氣の毒ですが止を得ない事情があるとすれば餘儀無い始末です少々問題が外れますが藝妓と娼妓と何方が**社會風教上**に及ぼす**惡影響**が多いかと申しますと藝妓の方が遙に劇しい**娼妓**は新くの通り**一廓內に押し籠**められて偶の外出でも三時間と制限されて居ますから外界の眼に觸れる事が少いが**藝妓**の方は左樣でない所謂上中下を通じて客とするさ輕蔑れる娼妓よりも**日常**に於ては其の**上中下流**を通じて**接觸**して華美、虛榮の風を助長する、神聖であると云ふ勞働者なぞをば下目に見て已れに近づく可らざるものとし已れを高きものにして居るから心の定らざる然らぬだに華美なるものに動く若い女の弱い心は挑發されて譯もなく其の樂しき樣に靡ひます、男は又其の艷かな姿態いた聲音に接してアラヌ心の搖亂を感じましよう、芝居見も相撲見も遊山も遊川も心の儘、市にローズの蠹を流して輕車を東西南北に馳する美しさを欲する人の弱き心は動くのです娘御も

奥さんも之れを手本に華美に流れる殿方は之を手本に女は常に斯く美く艷なるもの然らざるは女にあらず、故に我女房は女に非ずと三段論法かなんかで自分の女房を女の圏外に放逐して折花攀柳とやらを成さる何故なら此が金錢で買へると云のですもの、ダカラ私は娼妓を一廓內に集中する必要が風紀維持と云にありとしますれば藝妓をも又一地區に集中する必要を認めます、況やです不斷の健康診斷を行ふ必要をも認めになる程の疑問の人であれば猶更です、私は藝妓(第一種の)さん方で客をそれ取りになると云ふことを信じたくありませんが其の契約年限と前借金額及び利子衣服雜費其の他交際費等の諸入費を假定計上して其の平均收入額を假定して驗ましして何か他にも少しは收入がなければ**收支相償**はぬことを認めます莚に於て旦那取り或は枕金目的の宿屋回りを爲す妓があると云ふ風評を信じない理由に行きませぬ、既に然りとしますれば健康診斷の必要があると云はれても無理とは云へぬと思ひます、先日或る方のた話に何處かの待合からか或る所の藝妓を呼んだら浴衣掛けで來た彼等は初めから泊り込みの了見なのだと仰云いましたが之れは全斑を見たれ話しでない極端な例證と云ふに過ぎませぬ、要するに**私輩**は藝妓衆に檢黴―**健康診斷**です―夫れを**執行**されることは**樓主連**も**不贊成**ですと思ひます、何故と申しますれば「**公認**」せられたる**束縛無き私娼**(御社の口調です)の爲めに**營業を妨害**せられます、是非健康診斷を行ふとなれば貸座敷として一地區に集中せらるゝこと娼妓の如くされねば**好む所に偏する不公平**の御處置と考へられます云々

惡婆の貰兒虐待

▽因果の塊を貰受けて

仁川某劇場前に住む吉村かく(五〇)と云ふ惡婆あるが菓子小賣商は表面の事斗り日常良家の子女を賺りては色情の媒介などなし怪しからぬ事のみ爲し居る事とて仁川の鬼婆と何日しか人に仇名せらるゝに至りたるが茲に會田さんとするの一事は歌舞伎座の道具方に太田某と云ふあり昨年の事南近の○○の娘某と密通し居たりしが娘某は不斗も太田の胤を宿し日に增れ腹の皮は膨れ出し遂に袖や袂で隱しかね昨年の十一月の中旬月滿ちてトー〜玉の樣な女子を分娩したれば二人は子供の養育に付て兎やせん角やせんと鳩首して思案して見ても好い考は浮はぬより一層十圓も付けて他人に與れて仕舞ふ事と極め其事を前記のれろく婆に語りたればれろくは開た口に牡丹餅何の異議あろう事か一も二もなく貰受けたり其後れろくは子供の養育をなす可きに何は扨たき子供にはミルク一杯飲ませる事もせず粥を啜らしめ居る丈けにして自分は一人で芝居とか何とか外出のみなし內にては子供が聲張上げて泣叫び附近の者は婆の非道を嘆きつゝありしが最早子供は骨と皮斗りに疲せ衰ね至身糸の如くに成り聲もろく〜出ぬ有樣なりとて某氏は六日同家を訪ひ現狀を確めたるに全く前記の狀態を目のあたり見たる時は思はず身の毛が悚然たりと物語れり

れ客樓は枕探し

△惡戯が嵩じてれ佗

五日夜仁川敷島遊廓第二敷島樓に登樓したる仁川○○工場の技手吉野寿吉(三七)及友人赤田綱太郎の二人にして吉野は娼妓靜を赤田は同駒吉(三八)を敵娼に一夜の契り夢丸やかなりしに翌朝吉野は赤田と駒吉の未だ床放れのせぬ中に同人の部屋へ侵入し駒吉の鏡臺や長火鉢の抽斗を限なく捜し駒吉の手紙やら手帳やらを盗み取り自分の懷中に納めたるより駒吉は色男よりの手紙を取られてコハ大變と怒ち吉野に打て懸り漸く取戾したるよりホット安心し胸撫卸し居たるに軈て吉野も赤田も歸られたる後にて駒吉が鏡臺に向ひ髮掻揚げんと抽斗を引明けたる處コハソモ如何に僅かに仕舞置きし財布一圓六十錢入が紛失し居るより早速吉野に電話を懸けて私の財布を持ち行きはせぬかと詰問せし處寿吉は鮑く迄知らぬ半兵衛を極め込んで居たるより駒吉大に怒り己に表沙汰に及ばんとの見幕に今度は吉野も居堪まらず右の財布を携へ行き御侘の百万言とは元より惡戯事ならんも技備を下げた男と云ふ可し

●苦々しき朝鮮女房

仁川府南村面冠位洞崔延化の妻柳召史(三三)は夫婦の折合惡しく常に喧嘩の絶間なく去三月以來柳召史は出家し逃走中仁川內面外洞入統一戶申永基(五十)と途

●仁川修武館發起人總會

仁川修武館建設發起人總會は六日午後七時より民團樓上に於て開催せらる出席者は名譽會員には大谷裁判長中野事務官其他發起人一同來會し創立者より同武館建設に係る從來の經過を報告し尙修武館建設敷地は西本願寺前の空地と定め三名の委員代表して民團に借地出願の手續をなす事とし委員代表者には北島岳三、井川斌、秦武源吉の三氏撰擧せらる事務所には永久保存の會員及寄附者の名簿臺帳を備付ける事小册子に趣意書等を印刷し港民一般に配付し來る十一日實行委員會を開催し直ちに寄附金の募集に着手する事に決し同十一時散會す

●草鞋を飮だ授業手

鹿兒島縣人當時西大門外竹添町四十四番戸津曲彦助(三七)が古市町三十四番戸中島宗太郎方に雇れ中中島及本町八丁目大橋清三郎氏と共同經營に係る京城監獄作業請負の授業手として草鞋叺及び繩等の製作に關する教授監督に從事中四十三年七月より八月迄に中島より命を受け草鞋六百七十足を監獄より受取り之を中島に交付せず北米倉町小野幸四郎に賣渡し之を橫領費消し又同年九月四日幸四郎と共に旭町一丁目料理店大花亭に登樓飮食の末幸四郎が醉臥したるに乘じ同人懷中より財布在中金十四圓を竊取其の筋に檢擧され京城地方裁判所に於て懲役六月に處せらる

●傳染病患者數

南部警察署管內に於ける今日迄の傳染病患者は赤痢病者六名腸窒扶斯患者二十一名なりと要心肝要なり

●横領犯人の判決 龍山漢江通り三丁目三十六番戸坂和書方小間物行商福井縣人渡邊秀治(二三)は龍山鐵道構內雜貨商稻尾甄鑑方に雇れ中本年四月より五月迄に商品中僞玄茶外雜品十四點代二十五圓餘を竊取し又賣掛代十五圓餘を橫領し京城地方裁判所に於て懲役六月に處せらる

●酒造業の落成披露 永樂町三丁目元東萊園跡の酒造業にては先月來より新築中の處愈々落成して五日落成祝を爲し新聞記者及重なる得意の諸士を招待したり因に新築家屋は南山頂上より吹き來る涼風ありて夏の宴會に適當なる可し

●拘留十日に即決 明町百十四番戸石井次郎方同居長崎縣人森熊一郎(二十)は六日午后十一時頃南山町二丁目中村質店に至り毛布入質に關し强談威迫して南部署に突き出され拘留十日に卽決

●營業妨害者處分 福岡縣田川郡伊田村伊田千百八十九番地武田八十六の詐欺取財及營業妨害事件は懲役三月に拘留十日に處せらる

●列車中に金指環 平安北道義州城內居住千葉嘉一郎は五日午前八時南大門驛着列車內にて金指環印付一個拾得南部署に屆出たりと

●南山本願寺土曜講話 八日午後八時三十分より南山町本願寺に於て土曜講話を開き庵開教使は『佛陀の慈悲』宮永開教員は『人間の本分』に付て講話あり傍聽隨意

●女一代の衛生 書として絶大の賞贊を博し出版界空前の盛況を呈したる『婦人病者の心得』は今回更に婦人科の泰斗、北畠、佐藤兩醫學士の嚴密なる改訂を經數十頁の大增補を施して茲に第百版を刊行するに至れるを以て好箇の紀念として此際五百部限り申込の順序により無代進呈する由なれば希望者は頒本所東京市京橋區新榮町[illegible]岡省三氏宛ハガキにて速かに申込まる可し

●演藝だより

●壽座 來る七、八の兩日午後六時より玉武館(鍊武場)の開館式を兼ねて餘興を公開すべしと其の番組は劍舞、柔術、落語、手踊、音曲及び演劇研究胡蝶會の寄附演劇『夏から夏』全八場及び喜劇『ドの字』二場同『ノンキ者』二場等あり木戶場代下足共入場料二十錢

●歌舞伎座 木村猛夫一行八日の出し物は一座の得意なる『恩』全十二場を幕なし大車輪にて演ずべしと云ふ

●浪花館 大好評大入級の合併演藝會



▲貸家 南山町二丁目總督府前風景絶佳官吏に最も適當(本町二丁目辻屋商店)

▲今日は風聞子さんに代つて又れ詫でのた嘆を申上げる▲六日の午後四時過明倫語のあの湯の中へ充滿に浸つて居る人があつたがドャドャと三人入つか物音に心得たりと云ム風子れ起ち上つて今入つた人の顏をヅラリー列見渡して東端のスコ禿と眼が合ふと「ヨー」「ヤー」の挨拶交換が濟む其人は四十位のデップリ肥つた品の上い男▲言るとスコ禿の曰く「何うにも斯うにも官舍がアー集中て居ては」と言る新開地へ來て相當な風呂に浴して居るものは役人斗りだ、途方もない立派な家に住んで」と四十男「ヤ全く空家の多いのは失れですがナ」とスコ禿「勤儉貯蓄で三本節や二本節がチク〜で御通勤、朝鮮の爲になる樣に來て居る役人が朝鮮の金錢を澁つて朝鮮に落さないのだもの」と四十男は嘆息する▲と最前から聞いて居た三十五六の男「官吏にも淘汰とか改革だとかありますから」と言りかけるのを受けたスコ禿「私等も損を見越して栃皷きでもするか」(不明男)▲旭町一丁目の區劃の廣いのでは實に困る何んとか方法は無いものかしら(配達夫)▲京城に讃岐輪の人力車の數は何程位ありましようかしら(尋ね男)▲紅葉小路の道は惡いこと比類ですね(困難生)▲今年の樣に天災の多い歳も少いものですね實に心配で堪りません(杞憂生)▲花好生君の夜店拡大に賛成です誰れか發起して下さらんか(賛生)▲本年は何うも暑るが還い如ですが逆支へないものかしらん小僧君に問ふ(同度生)▲ヤ此れは困つた實に困つた斯う云ふ眞面目な事になると東も西も分らぬと來て居るのだらう困つたが困つて居ては埒が開かんからイキミ出して曰く未だ今日の所では差支なかるべしだアー苦しい(小僧)▲小僧君に問ふ、酒と女と賭博は何が一番弊害ありや(伺人)▲來たな此れは野衲の畠にある何んでもないれ茶の子さい〜だ、エヘン酒と女と賭博だ(小僧)▲餘り畠にも無い如だぞ(鼠)

●諸公債諸株券 現物賣買 迅速確實に御取扱可申候 兼業 洋服付屬品小間物 諸官衙御用達 京城本町三丁目 大阪野村徳七代理店 田中友吉商店 電話六九二 振替口座(夕)

手輕産兒院
入院料一日五十錢但し手傳料包含す患者の希望に因り自炊するものには一室を貸與す
西部新宿通り元明禮宮跡
主任 産婆 三池鶴代 外二名
（電話一四八九）

最上醤油 登録商標
千葉縣銚子町
醸造元 岩崎重次郎
山十印
京城本町壹丁目
發賣元 三巳商會
電話七五三番

磨擦白米
龍山精米所
京城米倉町
電話一二〇番

入院隨意
内外科
小兒病
梅毒淋病
京城壽町三丁目
高井醫院
電話（二二六）
院長 陸軍軍醫正 高井貞治



代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九〇四、一〇六八 振替口座京城十六番